

地震の次は竜巻…。自然災害国・日本を痛感
◆第1回定例会議において代表質問に初登壇
◆放射線測定が一段落。測定機の市民貸出を要望
◆バス・階段・道路など交通面で市民の利便・安全性向上を

稲成起風



2012年(平成24年)6月10日
発行:稲成会(鈴木誠後援会)事務所
稲城市平尾2-77-1 TEL.090-2453-8382

http://inagi.info

稲城市清掃工場への「女川町災害廃棄物受入」を前に安全体制を確認



沿岸から谷奥まで、民有地に高さ10m以上のガレキの山が延々と続く女川町

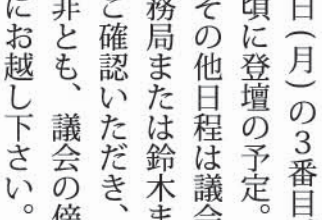
5月『宮城県女川町災害廃棄物受入れに関する住民説明会』が実施され、多摩川衛生組合構成4市(稲城・府中・狛江・国立)の住民関係者200名以上が参加。同月末には焼却残渣の日の出町最終処分場への受入協定締結。6月4日「受入期間は本年10月12月頃迄の3ヶ月間、受入予定量は日量10t、合計約900t(小金井ゴミ受入の10分の1)」と事務連絡有り。

説明会前に清掃工場を抱える稲城市民として被災地現場を会派視察。女川町だけで推定44万400t(同町の15年分)ある廃棄物は選別処理

1日も早く前向きで生産的な生活に戻れるよう遠く稲城から応援します。

被災地現場を会派視察。女川町だけで推定44万400t(同町の15年分)ある廃棄物は選別処理

同地は新清掃工場も建設中ですが、1日も早く前向きで生産的な生活に戻れるよう遠く稲城から応援します。



爆発事故の現場を視察

最近の稲城市情勢&6月議会でも取り組む事

5月末に稲城市健康プラザがオープン。温水プールやトレーニングジム、スタジオ等を設置、稲城市民は割安な定期券を購入可能。今後は健康プラザ(市立病院)へのバス交通改善が課題となる。



健康・健康プラザ落成式(上)。目玉である温水プールは武蔵野貨物線トンネル湧水と清掃工場焼却熱を利用、財政にも環境にも優しい仕組み(右)

「稲城・府中墓苑組合(墓地供用は平成27年予定)」が設立され、稲城市側から新政会・公明・民主が組合議会議長に参加。城山公園中央図書館と大丸公園の駐車場が有料化(24時間最大1200円)。入庫後

30分まで無料だが本の貸借には短い。公共交通利用者との公平性も考慮した上で、将来的な見直しが必要と考える。建設環境委員会では「iバスの観光利用」が本年度の研究焦点に。市内各施設と現在のiバス路線、iバス自体の利用法を見直して改善提言をします。

丸1年経ってしまいました。丸1年経ってしまいました。丸1年経ってしまいました。

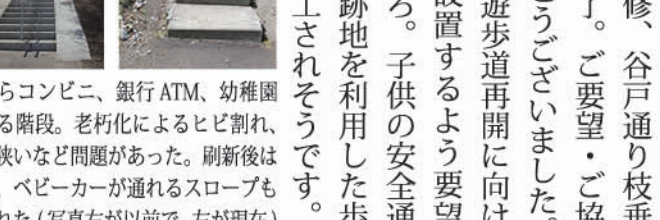
今回6月議会では、以前から担当レベルと協議を重ねてきた「平尾古民家の活用、iバス利便性向上、iプラザ利用料金、上平尾小田良土地区画整理、交通事故・防災対策」等に1歩以上の前進を目指し全力で取り組みます。

3月に一般公開された平尾古民家(上)、稲城駅で長時間停車するiバス(下)

少し時間が掛かりましたが平尾2丁目階段(はなぶさ幼稚園裏手)が完成。危険な急傾斜かつ旧型道路であった下

平尾マンション脇道路の改修、谷戸通り枝垂れ桜の保護ロープ設置も完了。ご要望・ご協力いただいた皆様、ありがとうございます。

お困り事、長年に渡ってなかなか進展しない事、お気軽にご相談を。真摯に対応致します。



山上からコンビニ、銀行ATM、幼稚園に通じる階段。老朽化によるヒビ割れ、路肩が狭いなど問題があった。刷新後は手すり、ベビーカーが通れるスロープも設置された(写真右が以前で、左が現在)

多摩川衛生組合での出来事

上述の被災地ガレキ受入以外に多摩川衛生組合では多くの動きがありました。前号で有識者の組合監査

和解が成立。和解金額25億5000万円!この大金の使い道については今後議論を重ねます。

6月8日(金)より平成24年第2回定例会議が開会中。私は一般質問18番

「建替えてではない再利用」UR多摩平団地を研究視察



ルネッサンス計画の1つ、専用庭&貸し農園付き世帯向け団地棟。デザイン性にこだわり、若者向け仕様。「カーシェアリング」も導入。(写真手前が貸し農園)

昭和33年築で平成20年に工事完了したUR多摩平団地。地域の人口急増を防ぐ目的で日野市とURが協定を結び、一部の団地建物を再生利用する「ルネッサンス計画」が導入された。

是非とも、議会の傍聴にお越し下さい。



平成24年
第1回定例議会

三月定例議
会では、年

鈴木誠の一般質問&結果

に一度の代表質問にも登壇しました。代表質問の内容については既に稲城市より配布されている『いなぎ市議会だより』をご覧ください。

◆市内学校施設等の防災化(結果◎)

前議会に引き続き、避難施設である市内小学校等の防災化関連で質問。近年中に大規模改修または建替計画があるのは第一・第二・第七の3小学校、第一・第三の2中学校、ふれんど平尾の計6施設。これらには太陽光発電機設置や強化ガラス導入、災害資機材スペース確保を実施し、防災化に努めると回答された。

また、今後予定されている(仮称)南山小学校には抜本的な防災対策を盛り込めるのではないかと提案。開放用玄関、更衣室の配置、体育館の独立使用、災害用マンホールトイレの設置等を検討するとの前向きな回答を得た。

◆都県境地区の治安維持について(結果◎)

本年2月に矢野口地区と川崎市多摩区で連続発生した自動車放火事件を受け、都県境の治安維持体制はどうなっているか質問。事件後、消防署で警戒を呼び掛けた他、多摩中央警察署と川崎警察署が合同捜査していると回答を得た。

管轄外執行権(境界から15km)について問うと都県を越境した逮捕事例は過去にもあると回答。矢野口・坂浜・平尾のような都県境地区での草の根的な治安維持体制を重ねて要望した。

◆児童見守りの仕組み作りについて(結果◎)

稲城市では過去に児童が犯罪に巻き込まれる大事件があったことや、いじめの相談件数も一定量ある現状を受けて、市の対応を問うた。

この件で、近隣の小平市で一昨年に導入した総務省の「地域児童見守りシステムモデル事業」を稲城市でも展開できるのではないかと提案。受益者負担の障壁があるため慎重な研究が必要だが、地域教育懇談会やPTA組織を通じて適切

に情報を伝えていくと回答を得た。

◆食用油のリサイクル・活用について(結果◎)

原油高やエコリサイクル、水質向上の考えから、稲城でのBDF(バイオディーゼル燃料)、食用廃油を原料にした環境にやさしいディーゼル燃料)事業について質問。年間200ℓを目標に、ふれんど平尾にて社会福祉協議会がBDF精製をしており、現在は剪定枝破砕車に年間200ℓを使用していると回答。しかし、年間800ℓもの余剰がある点を問うと、使用頻度が低いと固化し易い特性があるため、本来活用が期待されていた農業機器等にはあまり活用出来ないという課題が浮き彫りとなった。

また、「資源ごみ集団回収補助金制度」の補助団体で食用廃油を扱っているのは現在市内で1団体のみとの回答。自治会等へのさらなる導入呼び掛けと環境啓発の推進を要望した。

◆市内における起業活性化の方策(結果◎)

市内での新たな起業に対して、行政としてどのような取り組みを実施しているか質問。稲城市商工会や財団法人東京都中小企業振興公社などの関係機関と連携し、稲城市小口事業資金融資あつせん事業で開業支援をしていると回答。

市商工会へ年間5件ほど起業の問い合わせがあり、東京都商工会連合会や中小企業振興公社のセミナーも毎回満席状態であることから稲城市単独で起業セミナーを実施しても良いのではと提案。地域活性化のためにも稲城市域でのセミナー開講を実施したい、市商工会と連携して検討していくと前向きな回答を得た。

近年にはコココーラ、富士通など大手企業が市内から撤退してしまった。稲城の将来を考え、市は企業誘致にどう取り組んでいるかを質問。

◆稲城市への企業誘致について(結果◎)

市内への企業誘致は、ニュータウン区域での土地処分や土地画整理区域での保留地処分、大規模権利者の土地活用などにおいて、誘致・誘導に努めている。UR都市機構や土地画整理組合、関係機関などと連携している他、企業の投資動向情報を持つ金融機関やデベロッ

パー、建設企業、移転や出店の計画がある会社などへ広報活動を行っているとの回答を得た。

◆市内商工業活性化への課題について(結果△)

市内商工業の活性化に向けての諸課題について質問。長引く経済不況による購買力減退や受注量減少、事業者の高齢化などによる後継者不足など、様々な課題があり、市商工会や商店会連合会と連携が必要であると回答。

市内の購買力を高め、地産地消の状態を創出するには、こういったことが考えられるか問うと、生き生き商品券事業や住宅改修等補助事業などで購買力向上に取り組むと同時に、稲城市商工会との連携により魅力ある経営手法についても研究していくと回答。高齢化・後継者不足の件など、継続して取り組む必要性を感じた。

現在市内で進行中の土地画整理事業工事を市内商工業活性化に活用するよう意見した。基本的には選定された協力企業が一括施工するが、市内産業振興、企業育成などの観点から市内業者への発注に務めるよう組合を指導しており、分離発注が可能な関連工事について市内業者を入れた指名競争入札をしている。組合に対して市内業者への発注に努めるよう指導していくと回答。市内工事をより活用するよう要望した。

◆市の入札諸制度に対する考え方(結果◎)

血税の使い道として入札自体が安価であることは大切だが、市の根幹を成す市内業者も大切であるとの考えから、入札諸制度に対する市の考え方を質問。総合評価落札方式では、価格以外に本店所在地、市内でのボランティア活動実績、本市との災害協定の実績など、市内業者にプラスとなる評価項目を設定していると回答。

最近では健康プラザ・健診外来棟の建設も第2構成員を市内業者とする条件の上で建設共同企業体(JV)が落札。色々な形で市内企業の力を結集できる事業推進を併せて要望した。

◆その他の質問は議事録・HP等で確認ください

編集後記

皆様のご支援にて稲城市議に当選させていただきました。政の「表と裏」が徐々に理解出来て参りましたが、市政報告会も開催しますが、ご連絡いただければどこでも駆けつけます。忌憚無き議論をしましょう！

裏面にて女川町・日野市視察の報告を掲載しましたが、それ以外にも4・5月だけで国立市(古民家活用カフェ)、練馬区(イメージキャラクター)の活用、市民農園型レストラン、青梅市(多摩産材を利用したペレット精製)と、行ける限りに市外視察を敢行。会派視察では交通費が政務調査費から支出可能、しかし個人視察は全額自腹。お財布には厳しいですが「知識の蓄積には替えられない」と思い直して、日常生活内での節約を心掛ける昨今です。

稲城青年会議所主催『わんぱく相撲稲城場所』、いなぎ歴史探検『多摩の武士団と稲城の城跡』等を終え、ホッとするのも束の間、消防操法大会、盆踊り、例大祭…。今夏もイベントが目白押し！皆様も地域イベントにお越しいただき、いざという時の「共助」につながる「交流の輪」を広げて下さい。

先月30歳になりました。30代も全力を傾けて、皆様の代弁者として稲城市政前進に努めて参ります。身の回りのことなど、どんな小さなことでも結構です、市政に対するご意見ご要望をお寄せください。



《2月～5月の活動日数報告》

公務(本会議・委員会・審議会・公的視察等)37日、議員活動(市民相談・会派視察・研修・式典出席・資料作成・打ち合わせ等)76日、地域活動(自治会・消防団・青年会議所・奉賛会等)75日。同日内の重複もありますが、活動日数は4カ月121日中112日。休日9日間は従兄弟・友人の結婚式、幼稚園プレ入会式、釣りや家族旅行等で有意義に過ごせました。

詳細は「いなぎ暮らし日記」にてご覧下さい!



稲城の誠 検索
http://inagi.info

稲成会(鈴木誠後援会)では会員を随時募集しております。年会費無料。鈴木誠を応援して下さる方、「稲成起風」を毎号読みたい方、御連絡お待ちしております。

メール問い合わせ先: inari-kai@inagi.info